

目指す学校像	輝かしい歴史と伝統の上に立ち「至誠・士魂商才」の校訓のもと、地域産業の未来を担う人財の育成を使命とし、「中学生があこがれを持って目指す学校」、「企業から信頼される生徒を育てる学校」、「地域に貢献し、支援される学校」を目指す。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 自ら学ぶ姿勢を持ち、確かな学力とビジネスの実践力を持った生徒を育成する。 マナーと規律を守り、思いやりの心を持った生徒を育成する。 進路に対する高い志を持ち、その実現のために主体的に活動する生徒を育成する。 地域・保護者と連携をし、地域・保護者に信頼される学校を作る。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学校自己評価					年度評価(2月15日現在)		
年度	目標	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	多くの生徒が授業に積極的に取り組んでおり、授業の進度を速く感じている生徒が非常に多いが、8割の生徒は授業内容を概ね理解している。家庭学習では、検定前の1・2週間前は行っているが、普通教科も含め、習慣づけられるよう指導の工夫が必要である。 「至誠」「士魂商才」を揮毫された澁澤栄一翁の生き方や考え方を、どのように確かな学力とビジネスの実践力に結びつけるか工夫する。	<ol style="list-style-type: none"> わかる授業の実現 検定合格者数の増加 家庭学習時間の増加 	<ol style="list-style-type: none"> 「学ぶ力」を定着させる授業を展開し、公開授業を行うなど「授業力」の向上を図る。 資格取得の奨励などにより学習の動機付けを行い、より高度な資格取得を目指す。 授業で予習・復習を促し、効果的な課題を課す。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の授業の理解度や授業への取り組み(生徒アンケート)と公開授業の実施回数 各種検定の取得状況(普通教科も含む) 家庭学習の取り組み状況(生徒・保護者アンケート) 	専門教科の高度資格取得は概ね良好で、昨年よりも多少ではあるが伸びている。 1 授業への参加態度については、9割の生徒が「取り組んでいる」と回答しており良好である。 2 全商3種目1級以上取得者は131名であった。 3 1年生は6割が取り組んでいると回答、全学科を平均すると4割程度に止まった。	A	課題 85%の生徒は、授業内容を理解しているが、理解できていない生徒をどのように指導していくか考える必要がある。 改善策 教員の授業の工夫・改善する一方で、理解できていない生徒に対しては、個別指導や組織的な対応について、家庭学習を含めて検討していく。
2	身だしなみ、あいさつ、授業規律、交通マナー等の状況の生徒の自己評価はかなり高いが、教員側の意識と差があり、その差を埋める必要がある。 生徒一人ひとりが自ら学校行事・部活動を活性化させるため積極的に参画する主体的態度・意欲および自律した判断や行動ができる力など人間力の育成が課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 主体的にモラル・マナーを守る態度を育成する指導の実施 学校行事・部活動・体験活動の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 身だしなみ、あいさつ、授業規律、交通マナー等の状況の評価及び、アンケートでこれを主体的に守っていると答える生徒の数 自ら主体的に学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行等)部活動・体験活動等に参画する意欲を高め、社会的な能力・態度を育成し、学校に対する愛情と「人間力」を磨き高めさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 身だしなみ、あいさつ、授業規律、交通マナー等の状況の評価及び、アンケートでこれを主体的に守っていると答える生徒の数 学校行事・部活動・体験活動等への参加生徒数及び、活動状況 	年間を通して進学・就職に向けてのモラル・マナー指導を行い、一定の成果を上げている。 1 生徒のアンケート結果では、9割以上の生徒が出来ていると回答している。 2 卓球部が2年連続関東大会に出場し、簿記部・コンピュータ部は全国大会連続記録を更新中である。ビジネス部も今年度は、全国大会に参加することが出来た。	B	課題 携帯電話やスマートフォンの利用時間の設問を追加したが、3年生では約50%が4時間以上使用しているというアンケート結果であった。 改善策 校内での生徒の携帯電話やスマートフォンの使用方法について検討する必要がある。
3	1年生から進路ガイダンスをとおして進路に関する意識付けを行ない、早期から生徒に目的意識を持たせる指導の成果により良好な進路実績を保っている。今後は、保護者の意識付けや大学や公務員に対する指導方法等の工夫が必要である。 キャリア教育については、教育活動や県内企業・団体と連携しながら、計画的に進める必要がある。 学習指導要領の改訂や「高大接続改革」に伴う対応等について、教職員の共通理解を図る必要がある。	<ol style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実 就職・進学希望の実現 新学習指導要領の対応を図る 	<ol style="list-style-type: none"> キャリアノートを活用し、キャリア教育への理解を深め、早期から進路に関する意識付けを保護者も含めた進路指導を図る。 就職試験・進学対策の指導体制の工夫改善の実施。 「高大接続改革」やそれに伴う「調査書」「指導要録」の変更について共通理解を図ると共に、新学習指導要領に対応した教育課程を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> キャリア教育に関連する講演会実施状況やキャリアノート活用状況等 就職・進学希望者の進路決定状況 教職員研修の実施状況や教職員の理解度の状況及び新教育課程の取組み。 	3年間を通じたキャリア教育により、生徒は目的を持って進路活動に取り組むことができた。 1 キャリア教育に関しては、進路指導部を中心に、進路ガイダンスを予定通り実施し、ガイダンス・講演は13回実施している。 2 就職・進学希望者の進路決定状況は、ほぼ100%に近い状況である。 3 高大接続改革に伴う対応について、教職員の共通理解を図ることが出来た。	B	課題 2年生の保護者は、進路情報の提供や進路相談に約2割程度、不満を抱いている。教職員からのアンケートでは、約2割の先生が、進路関係の情報が的確に収集され活用されていないと回答している。 改善策 進路指導部を中心に、各学年と連携して、アンケートの内容を工夫するなどして、原因を調査・分析し、今後の進路指導に役立てる必要がある。
4	地域との良好な関係を維持できていると考える。今後は、更なる効果的な連携を組織立てて行う必要がある。 ホームページの内容を工夫し、広報誌等を活用しながら情報発信に努める。 また、授業をとおして、地域の企業と連携をより一層深められよう工夫する。 100周年に向けて、保護者・同窓会・地域との連携をして準備を進める必要がある。	<ol style="list-style-type: none"> PTA活動の充実と効果的な情報発信 中学校訪問や効果的な学校説明会の実施 授業を通して地域との連携を図る。 100周年実施委員会を設置し事業に向けて準備する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校行事の保護者・地域への公開とHPの充実を図る。 中学校訪問や体験入学、学校説明会などの中高連携行事を実施する。 地域の企業と連携して効果的な授業を展開する。 委員会を中心にPTA・同窓会と連携しながら、100周年記念事業企画・運営を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 保護者の学校行事への参加状況ならびに、学校からの情報提供への満足度 中学生の進路希望状況 地域の企業との連携状況 100周年記念事業に向けた進捗状況 	保護者・地域への情報提供、等は、ほぼ例年通りの実施できた。 1 保護者の学校行事への参加状況は各支部の協力もあり参加率も高く、良好である。 2 1月の調査では、入試倍率が3学科平均1.00倍である。 3 「商品開発」の授業で地元の企業と連携を図ることが出来た。 4 記念式典の日程・会場等を確認することができた。	A	課題 分かり易い目指す学校像のもと、保護者・地域・教職員に周知徹底する必要がある。地域に情報発信をすると共に、地域の教育力を活用する必要がある。 改善策 目指す学校像を簡潔にし、より一層の教職員の共通理解を図る。地元の地域力を活かし、教育活動に活かす必要がある。

学校関係者評価	
実施日	平成31年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの先生が、「考えさせる」授業を展開するため、より一層の工夫・改善が必要である。 中学校からの「澁澤栄一翁」の意思を継いだ教育活動を、その渋沢スピリットを本校の教育課程に活かすことができないか、検討する必要がある。 家庭学習の習慣付ができるように、各教科で話し合うことが大切である。 子どもの悩み相談やいじめの対応など、教職員の意識を高め、一致団結して取り組む必要がある。 今後、スマートフォンの使用方法を検討する必要がある。 身だしなみ、あいさつを徹底するため生徒に納得させながらの指導が大切である。 保護者並びに生徒に対して、進路情報が的確に伝わるよう工夫する必要がある。 進路情報に関しては、保護者間や親子間で情報の共有をすることが大切で、PTAでも何らかの関りが持てると良いと思う。 キャリア教育を通して、職業観・勤労観を養いながら進路指導を図る。 	
<ul style="list-style-type: none"> 中学生に対して、中学校訪問や体験入学、学校説明会など説明内容を工夫し情報発信に努める。 地元企業に協力していただき、地域の教育力を活かせる工夫をすることが大切である。 100周年記念式典に向けて、準備委員から実行委員会として、具体的に進めていく必要がある。 	